

## 「第5次千葉市男女共同参画ハーモニープラン（案）」に対する意見の概要と市の考え方

No	項目	意見の概要	市の考え方	計画への反映
1	第1章 2 背景 (3ページ)	「千葉市の合計特殊出生率は年々低下し、令和2年度は1.22となっており、人口は2020年代前半をピークに減少に転じる見込みです」と記載されています。先ず、和暦と西暦を同時に使われると混乱します。P.1で記載されているように、令和2年度（2020年度）と記述してください。次に、本プラン（案）は令和5年(2023)3月に発行される予定で、2020年代前半に相当しますので、人口減少に転じる時期をそれなりに記述とした方がよいと思います。令和2年～3年度段階での記述となっています。	本文については、和暦と西暦を併記し、図と指標については、原則和暦のみの表記とします。 人口減少に転じる時期については、市の基本計画に基づいており、原文どおりといたします。	—
2	第1章 2 背景 (3ページ)	グラフの実績データは、元号（和暦）表示、推計データは西暦表示です。西暦で統一した方が経過年数を簡単に計算でき便利です。	本文については、和暦と西暦を併記し、図と指標については、原則和暦のみの表記とします。	○
3	第1章 2 背景 (4ページ)	図3に平均初婚年齢（千葉市）が示されています。説明文では男性、女性と表記しているのに対し、グラフでは、夫、妻と凡例を記しています。男性、女性が正解と思います。	国の統計資料等の記載に合わせ、本文の表記を「夫」と「妻」に変更し、表記を統一いたします。	○
4	第1章 2 背景 (5ページ)	「社会全体の活力を維持するために、希望する者が経済的な不安等を解消して結婚できるようにするとともに、子どもを産み・育てたいと思う人が安心して出産・子育てしやすい環境を整備するなど、市内外から選ばれるまちづくりが必要です」と記載されていますが、この文章は本プラン（案）に必要でしょうか？そもそも結婚する、しない、及び子どもを産む、産まないは個人の自由です。	当該記載は、希望する方が出産や子育てしやすい環境を整備するという趣旨であるため、原文どおりといたします。	—

No	項目	意見の概要	市の考え方	計画への反映
5	第1章 2 背景 (6ページ)	【近年発生した災害】の表において、令和元年房総半島台風と令和元年東日本台風の日付を付記していただくと、災害発生は集中して起こることが表現できると思います。	ご意見いただいたとおり、表記を修正いたします。  令和元年房総半島台風：9月9日 千葉県付近に上陸 令和元年東日本台風：10月12日 伊豆半島に上陸	○
6	第1章 2 背景 (9ページ)	社会経済情勢と千葉市の状況において、①～③は本プラン（案）に結びつける説明がなされています。しかし④テクノロジーの進展では、女性が大学の理工系分野を専攻または研究者が全国的に少ないとの説明しかありません。理工系の女性が少ないイコール女性のテクノロジーの対応が弱い、は誤った認識だと思えます。そもそも大学理工系男性の大半がテクノロジーの進展に適応できているかどうか疑問です。	大学等で理工系分野を専攻する女性や研究者に占める女性の割合が低いという事実のみを記載しており、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）によるものが大きいと考えられることから、その打破が必要な旨記載しております。 女性のテクノロジー対応力が弱いという認識ではなく、理工系進路を選択する際の見えない障壁を取り除き、個性や能力を伸ばすための取組みを進めて参ります。	—
7	第2章 基本目標 I 【現状と課題】 (19ページ)	「千葉市においても、育児期にある女（35-39歳）の労働力率は、平成22年度(2010)には58.6%であったものが、令和2年度(2020)には74.1%となり、増加傾向にあります」と記載されています。先ず、労働力率は育児期の女性階級だけでなく、すべての年齢階級で増加しています。この傾向は、晩婚化や結婚しない女性の増加により労働力率の分子が大きくなったこと、あるいは分母の人口の減少が要因かもしれません。M字カーブのMが顕著でなくなってきたような気がします。	ご意見のとおり、全ての年齢階級で、女性の労働力率は増加しており、初婚年齢の上昇や未婚率の増加が原因として考えられますが、共働き世帯数が増加しており、M字カーブは浅くなりつつあると認識しております。	—

No	項目	意見の概要	市の考え方	計画への反映
8	第2章 基本目標Ⅰ 【現状と課題】 (20ページ)	「国の「第5次男女共同参画基本計画」では、「統一地方選挙の候補者に占める女性の割合」の目標として2025年に35%という数値が掲げられましたが、千葉市の市議会議員の占める女性議員の割合は、平成27年度から増加はしているものの、令和3年4月現在で22%と、いまだに少ない状況となっており」と記載されています。国の目標が候補者の割合であるのに対し千葉市が令和3年の在籍議員数（当選者）での比較は好ましくないと思います。さらに2025年は令和7年ですから、次期千葉市議会選挙予定の令和5年の女性候補者は多くなるかもしれません。	本文に、平成31年4月の市議会議員選挙における、候補者に占める女性の割合（18.5%）を記載いたします。	○
9	第2章 基本目標Ⅰ 施策の方向性（2）働く場における男女共同参画の推進 (22ページ、23ページ)	図9 職場における性別の扱いの差の有無についての意識（千葉市）の説明として、26.7%の方が「男性の方が優遇されている」と性別の差別があることを取り上げ、さらに性別の扱いがあると思う具体的な内容にまで言及しています。図9を見て驚くのは、全体で52.9%、約半数の人が性別によって差はないと思っていることです。何をもちって差はないと思うのかというデータがないので何とも言えませんが、“性別によって差は無い”と思っている人が多いと女性参画の状態を改善することは難しいと思います。	ご意見を参考に、市民の理解促進や家庭や地域における学習機会の充実に取り組んで参ります。	—
10	第2章 基本目標Ⅳ 施策の方向性（1）様々な個性や能力を伸ばし、可能性を広げる学校教育等の推進 (57ページ、58ページ)	図28では親が男の子に身に付けて欲しいことの（イ）家事・育児の能力、図29では親が女の子に身に付けて欲しいことの（工）個性を伸ばすことが低い割合を示していることが重要な課題だと思います。調査対象は不明ですが、例えば小学生だとすると親は母親です。男女共同参画のキーポイントは女性（特に母親）です。	調査対象は、千葉市内に居住している満20歳以上の3,000人（男女各1,500人）です。ご指摘の質問項目に加え、女の子の（ア）自立できる経済力も重要であると考えております。	—

No	項目	意見の概要	市の考え方	計画への反映
11	第2章 基本目標Ⅳ 施策の方向性(1) 様々な個性や能力を伸ばし、可能性を広げる学校教育等の推進 (58ページ)	図30 教職員の女性割合の推移(千葉市)を見ると、平成30年度から小学校教頭、中学校教頭の割合が突如増加しています。この事象に関する説明は必要です。	平成28年度に策定した千葉市女性職員活躍推進プランに基づき、近年市職員全体の管理職に占める女性割合が増加傾向にあり、教職員についても同様の傾向があるものであり、原文どおりといたします。	—
12	第2章 基本目標Ⅳ 施策の方向性(1) 様々な個性や能力を伸ばし、可能性を広げる学校教育等の推進 (59ページ)	キャリア教育の充実の具体的事業において「女性リーダーの育成」を掲げており、対象者を市内の女子学生(中学生、高校生)としています。市内に住居あるいは在学の短期大学、大学の女子学生も対象としていただきたい。大学、高校、中学の学生・生徒の交流を通じて育成することも一手段だと思います。	対象者の表記を「市内の女子学生」に変更いたします。 ※21ページにも同事業を掲載しているため、同様に変更いたします。	○
13	第2章 基本目標Ⅳ 施策の方向性(3) 男女共同参画を推進する民間団体との連携と支援 (63ページ)	「令和元年度「千葉市における女性の社会参画に関する意識調査」において7割近くの女性が「地域活動は行っていない」と回答している」と記載し、さらに「地域活動の担い手が不足している」と結論付けています。素直に読むと、女性の地域活動への不参加が担い手不足の要因と捉えられます。男性に対する同様の調査結果を示し、それとの比較での要因分析が必要です。	グラフを男女別のデータに変更し、男女ともに、地域活動の担い手が不足していることを記載いたします。	○